

2016/2/15

柏の景気情報（平成28年1月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成28年1月分）

○ 調査期間 : 平成28年1月25日 ~ 平成28年2月10日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	84	53.8%
建設	44	24	54.5%
製造	33	18	54.5%
卸・小売	43	28	65.1%
サービス	36	14	38.9%

○ 調査方法 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。
と調査表

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成28年1月の調査結果のポイント】

◀業況DIは横ばい推移。先行きも慎重な見方が続く▶

○1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲29.7(前月水準▲28.7)となり、マイナス幅が1.0ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲38.8(同▲41.1)である。マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業±0.0(同▲14.2)である。変わらない業種は、建設業▲12.5(同▲12.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲53.5(同▲44.0)である。

【建設業】からは、「様子見感が強いが、消費税UPを控え、今年は動くのではないだろうか」(一般土木建築工事業)、「3ヶ月先の見通しが不明。結果的に、売上の増加、採算の改善があった」(電気工事業)、「1月は休みも多く、畳工事の受注は例年通りですが、畳縁(へり)バックと小物は好調。お客様(オーダー品の)にはお待ちいただいている状況」(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「為替の影響により海外輸入の購入品が軒並み値上げ。収益を圧迫」(その他の機械・同部品製造業)、「前年同月の売上と比較しても、年々流れに変化があり、先が読めない。臨機応変の対応と日々の精進あるのみである」(印刷業)、「中国経済の悪化が進んでおり、大型設備関係の輸出が減少して、生産量の増加が見込めない」(一般産業用機械・装置製造業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「後半に入るまで、暖冬による重衣料、特にコートの売上が大幅マイナスであった。真冬日になった月末にも取り戻せなかった。取り分けダウンとコートは悪い。セーターも良くない。発熱系のカットソーのみ善戦した」(婦人・子供服小売業)、「1月に入り、正月初売りは苦戦した。18日以降、気温低下で衣料品、肌着と紳士者は好調に推移。住居は寝具関連が好調。食品は鍋材料の野菜、肉、魚が好調」(その他の各種商品小売業)、「流山おたかの森周辺の人口増で、売上増に寄与しているが、お客様の財布のひもは固い。新学期に向け、入学用品の動きが活発。しかし、ネット価格との比較で、競争は厳しい。商品価格の設定にネットを参考にすることが多くなる」(その他の飲食料品小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「個人需要では、ふるさと旅行券利用の駆け込み需要が増えている。また、3月26日開業予定の北海道新幹線利用のツアー申込みが少しずつ増えてきている。ヨーロッパ方面はまだまだ敬遠されている(特に卒業旅行)。法人需要では、職場旅行や職場運動会などの社内イベントで、社内コミュニケーションアップや組織力強化、ひいては業績向上を狙う経営者が増えている。もはや職場旅行や社内イベントは、福利厚生ではなく、経営戦略のひとつに。自治体や関係団体に、2020年を見据えたインバウンドへの取り組みが少しずつ動き出している」(旅行業)、「お客様からの問い合わせは相変わらず多い。但し、購買は慎重で、成約に至るまでが長い。また、価額に対しての値下げ要請が強く、利益が取りにくくなっています」(不動産管理業)、「飲食店可の物件が駅周辺には不足している状況です」(不動産賃貸業)などのコメントが寄せられた。

◎原油安

各業種より、「軽油が値下がりして、燃料費が昨年より下がり、利益に貢献しています」(一般貨物自動車運送業)、「使用材料の殆どが石油製品のため、その値下げがあったと思われて、ゼネコンより施工単価を安くするよう要求されている。しかし、実際は上げ止まりとなった材料は、そのままの価格で売買され、一向に安くなる気配は無い」(その他の職別工事業)、「石油価格が下がっているのに、一向にインク代、材料費が下がっていない」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

◎天候不順

各業種より、「衣料品は序盤は気温の高い日が続ぎ、婦人・紳士とも冬物商材のコートなど重衣料の苦戦継続」(百貨店)、「最近の青果物は、異常気象ともいえる環境の中、昨年の暮れから新年中旬までは暖冬により葉物生育が早まり入荷増となったが、季節の鍋物消費がなく、安値取り引きとなっていた。後半になると、例年以上の寒気から、やや入荷が減少する一方、野菜消費が増加傾向で高値取引となっています」(食料・飲料卸売業)などのコメントが寄せられた。

◎人手不足

各業種より、「依然として賃上げ、従業員、作業員の増員は業況的に厳しい状況である」(その他の職別工事業)、「個人消費は伸びているとは思えない。今年は、沼南のSCや南柏にスーパー、柏駅前スーパーが新店等で、競争が激しくなる。それにより人手不足が心配で、時給アップ等も検討しなければならぬ」(各種食料品小売業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
8月	▲23.1	▲35.0	▲11.1	▲32.1	▲6.2
9月	▲20.2	▲21.7	▲5.5	▲35.7	▲6.6
10月	▲26.2	▲13.6	▲33.3	▲44.0	▲6.6
11月	▲30.8	▲21.7	▲27.7	▲52.0	▲13.3
12月	▲28.7	▲12.5	▲41.1	▲44.0	▲14.2
1月	▲29.7	▲12.5	▲38.8	▲53.5	±0.0
見通し	▲14.2	±0.0	▲11.1	▲28.5	▲14.2

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成28年1月の業況についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲29.7(前月水準▲28.7)となり、マイナス幅が1.0ポイント拡大した。

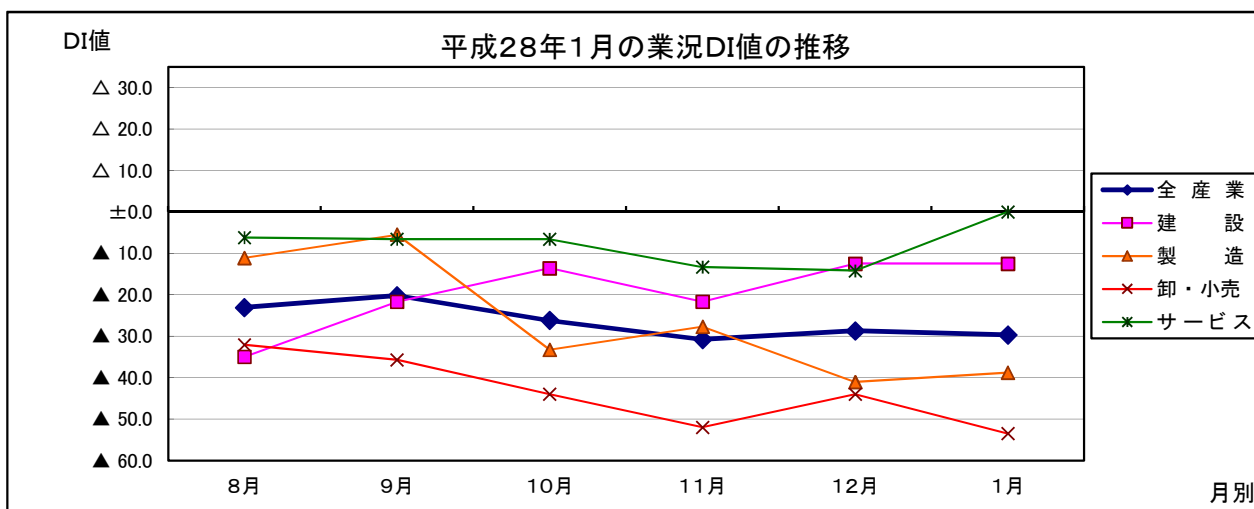
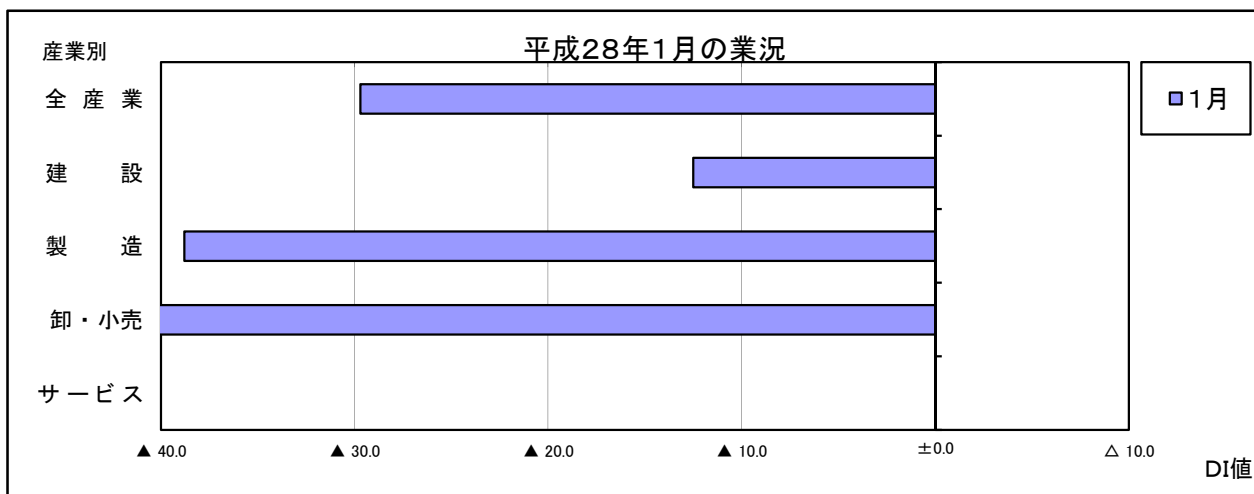
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲38.8(同▲41.1)である。マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業±0.0(同▲14.2)である。変わらない業種は、建設業▲12.5(同▲12.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲53.5(同▲44.0)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14.2(前月水準▲15.0)となり、マイナス幅が0.8ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、建設業±0.0(同▲8.3)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲11.1(同▲11.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲14.2(同▲7.1)、卸小売業▲28.5(同▲28.0)である。

平成28年1月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 8月	9月	10月	11月	12月	1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲23.1	▲20.2	▲26.2	▲30.8	▲28.7	▲29.7	▲14.2(▲15.0)
建設	▲35.0	▲21.7	▲13.6	▲21.7	▲12.5	▲12.5	±0.0(▲8.3)
製造	▲11.1	▲5.5	▲33.3	▲27.7	▲41.1	▲38.8	▲11.1(▲11.7)
卸・小売	▲32.1	▲35.7	▲44.0	▲52.0	▲44.0	▲53.5	▲28.5(▲28.0)
サービス	▲6.2	▲6.6	▲6.6	▲13.3	▲14.2	±0.0	▲14.2(▲7.1)



【平成28年1月の売上についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲29.7(同▲18.7)であり、マイナス幅が11.0ポイント拡大した。

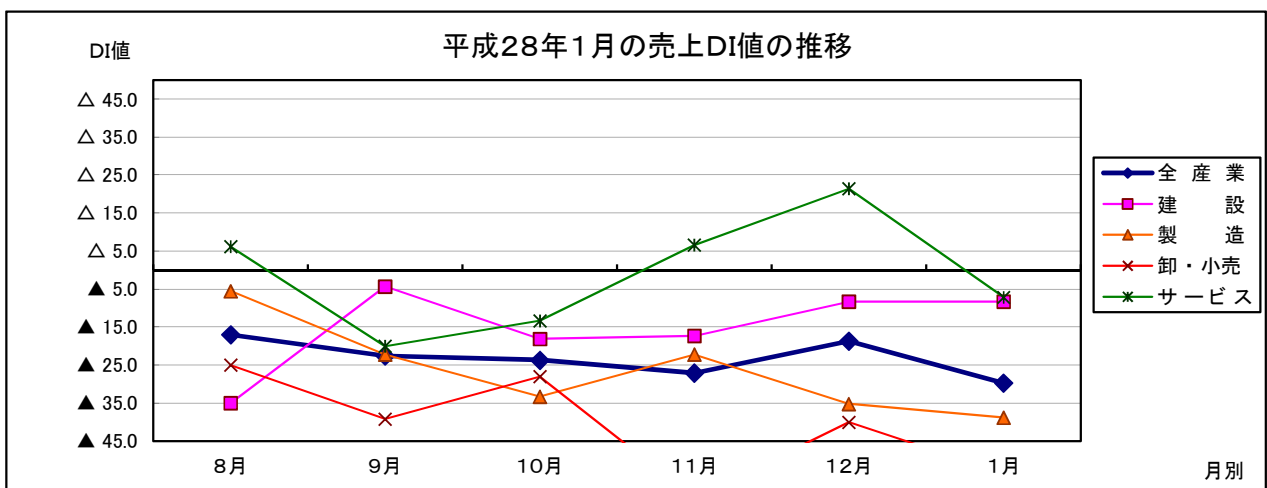
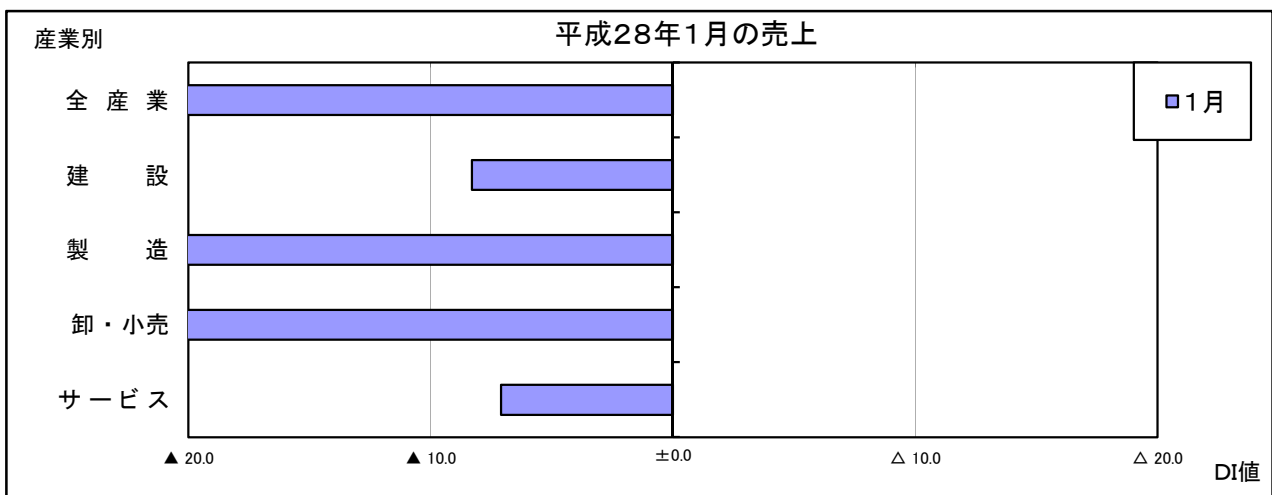
業種別では、前月水準と比べて、変わらない業種は、建設業▲8.3(同▲8.3)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲7.1(同△21.4)であり、28.5ポイントと大幅に悪化した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲53.5(同▲40.0)、製造業▲38.8(同▲35.2)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲9.5(前月水準▲3.7)となり、マイナス幅が5.8ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業±0.0(同▲11.7)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲21.4(同▲28.0)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲7.1(同△35.7)、建設業▲4.1(同△4.1)であり、特にサービス業では、42.8ポイントと大幅に悪化する見通しである。

平成28年1月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 8月	9月	10月	11月	12月	1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲17.0	▲22.6	▲23.7	▲27.1	▲18.7	▲29.7	▲9.5(▲3.7)
建設	▲35.0	▲4.3	▲18.1	▲17.3	▲8.3	▲8.3	▲4.1(△4.1)
製造	▲5.5	▲22.2	▲33.3	▲22.2	▲35.2	▲38.8	±0.0(▲11.7)
卸・小売	▲25.0	▲39.2	▲28.0	▲60.0	▲40.0	▲53.5	▲21.4(▲28.0)
サービス	△6.2	▲20.0	▲13.3	△6.6	△21.4	▲7.1	▲7.1(△35.7)



【平成28年1月の採算についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲33.3(前月水準▲32.5)となり、マイナス幅が0.8ポイント拡大した。

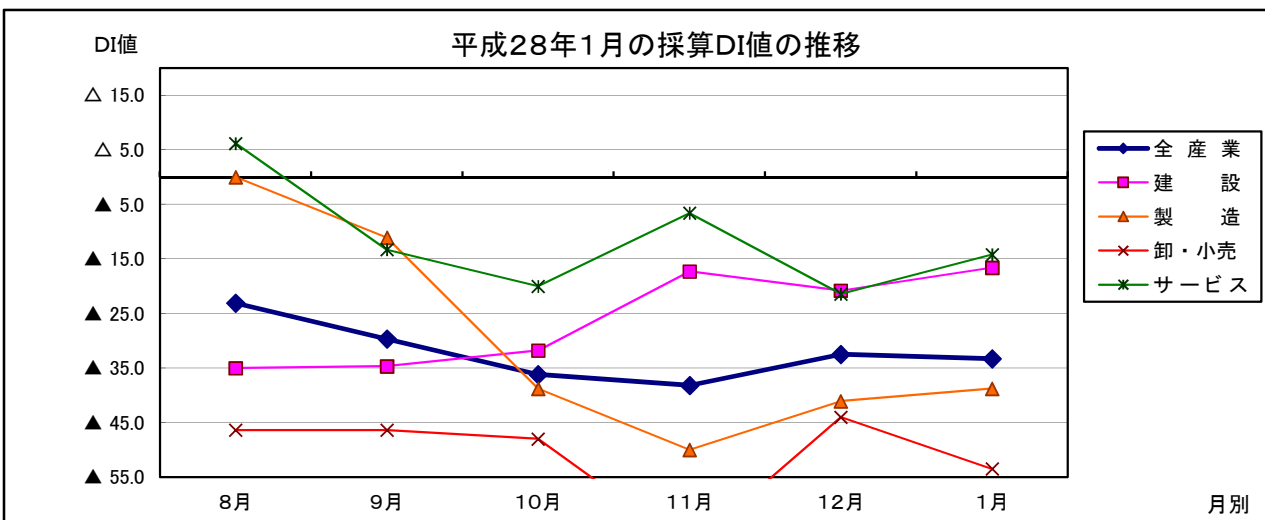
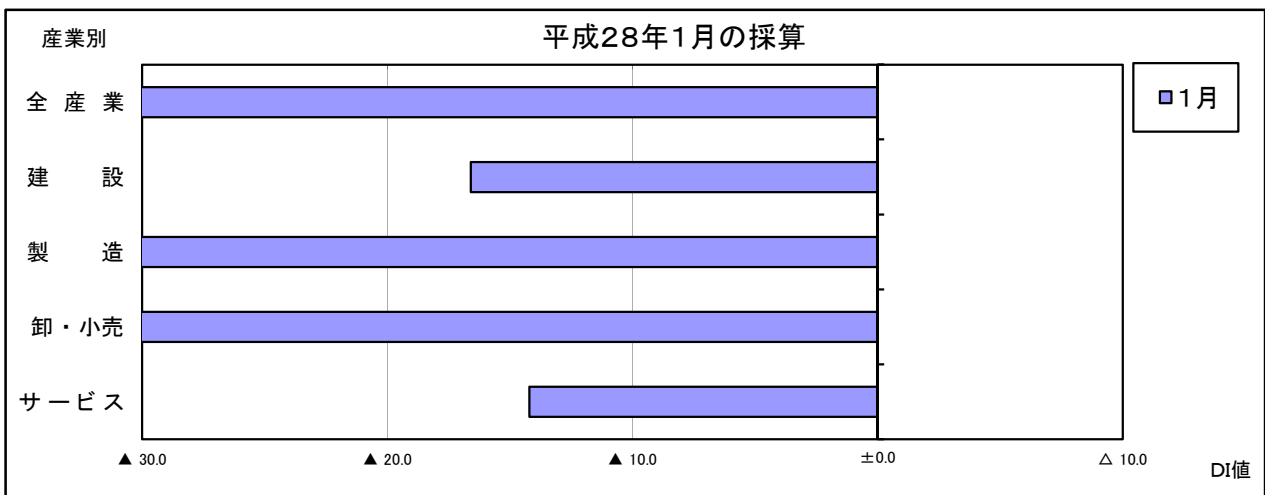
業種別では、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲14.2(同▲21.4)、建設業▲16.6(同▲20.8)、製造業▲38.8(同▲41.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲53.5(同▲44.0)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲20.2(前月水準▲16.2)であり、マイナス幅が4.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲32.1(同▲40.0)である。変わらない見通しの業種は、建設業▲8.3(同▲8.3)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲21.4(同±0.0)であり、21.4ポイントと大幅に悪化する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲16.6(同▲5.8)である。

平成28年1月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 8月	9月	10月	11月	12月	1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲23.1	▲29.7	▲36.2	▲38.2	▲32.5	▲33.3	▲20.2(▲16.2)
建設	▲35.0	▲34.7	▲31.8	▲17.3	▲20.8	▲16.6	▲8.3(▲8.3)
製造	±0.0	▲11.1	▲38.8	▲50.0	▲41.1	▲38.8	▲16.6(▲5.8)
卸・小売	▲46.4	▲46.4	▲48.0	▲68.0	▲44.0	▲53.5	▲32.1(▲40.0)
サービス	△6.2	▲13.3	▲20.0	▲6.6	▲21.4	▲14.2	▲21.4(±0.0)



【平成28年1月の仕入単価についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲17.8(前月水準▲26.2)となり、マイナス幅が8.4ポイント縮小した。

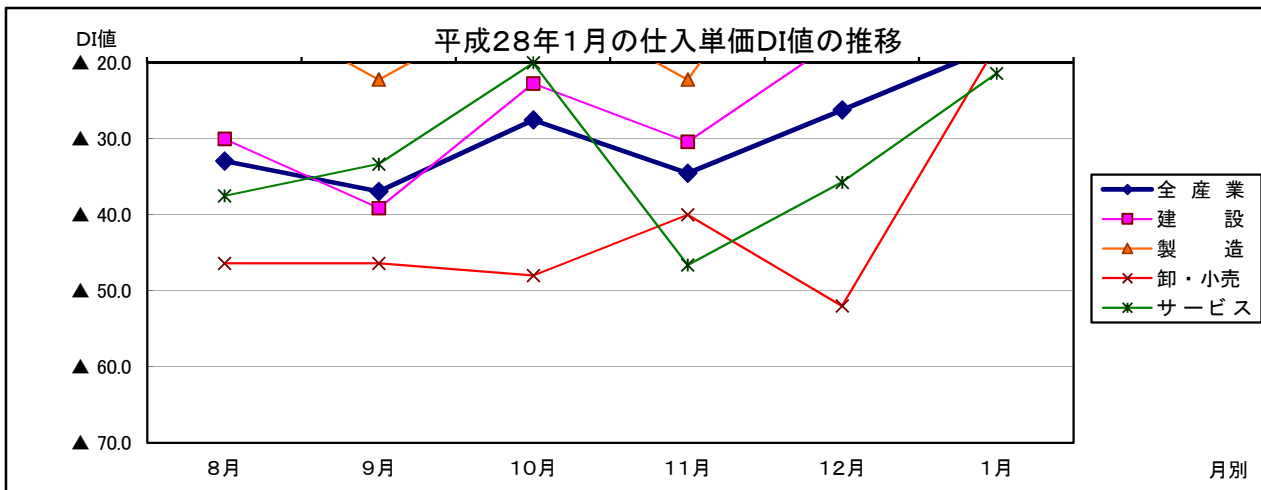
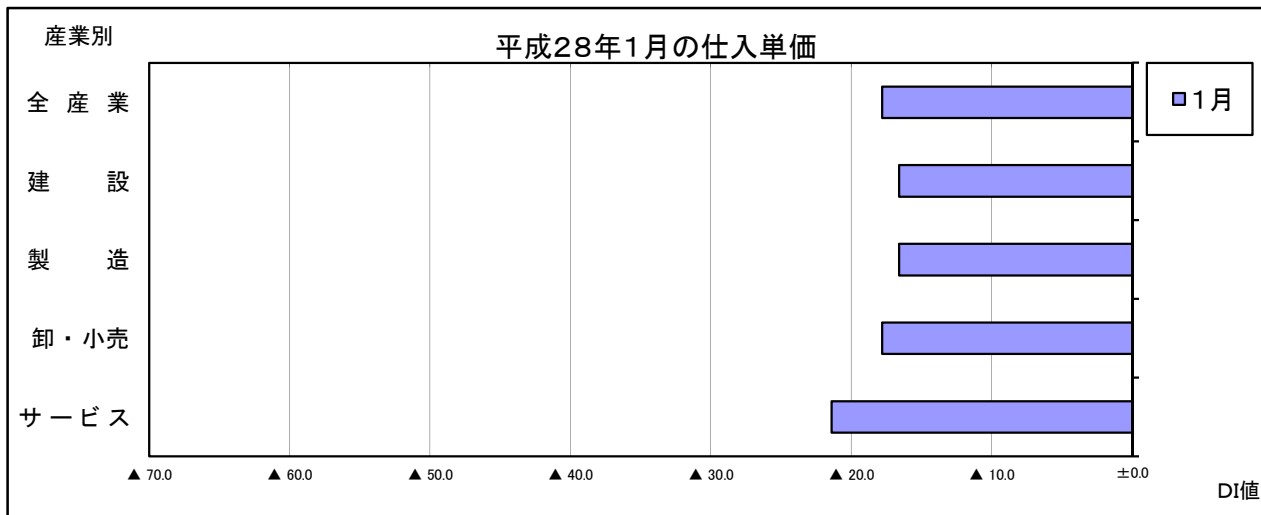
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲17.8(同▲52.0)、サービス業▲21.4(同▲35.7)であり、特に、卸小売業では、34.2ポイントと大幅に縮小した。変わらない業種は、建設業▲16.6(同▲16.6)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲16.6(同△5.8)であり、22.4ポイントと大幅に悪化した。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲19.0(前月水準▲26.2)となり、マイナス幅が7.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、全ての業種でマイナス幅が縮小する見通しであり、幅の大きい順に、建設業▲4.1(同▲12.5)、卸小売業▲32.1(同▲40.0)、サービス業▲28.5(同▲35.7)、製造業▲11.1(同▲17.6)である。

平成28年1月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 8月	9月	10月	11月	12月	1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲32.9	▲36.9	▲27.5	▲34.5	▲26.2	▲17.8	▲19.0(▲26.2)
建設	▲30.0	▲39.1	▲22.7	▲30.4	▲16.6	▲16.6	▲4.1(▲12.5)
製造	▲11.1	▲22.2	▲11.1	▲22.2	△5.8	▲16.6	▲11.1(▲17.6)
卸・小売	▲46.4	▲46.4	▲48.0	▲40.0	▲52.0	▲17.8	▲32.1(▲40.0)
サービス	▲37.5	▲33.3	▲20.0	▲46.6	▲35.7	▲21.4	▲28.5(▲35.7)



【平成28年1月の従業員についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△9.5(前月水準△8.7)となり、プラス幅が0.8ポイント拡大した。

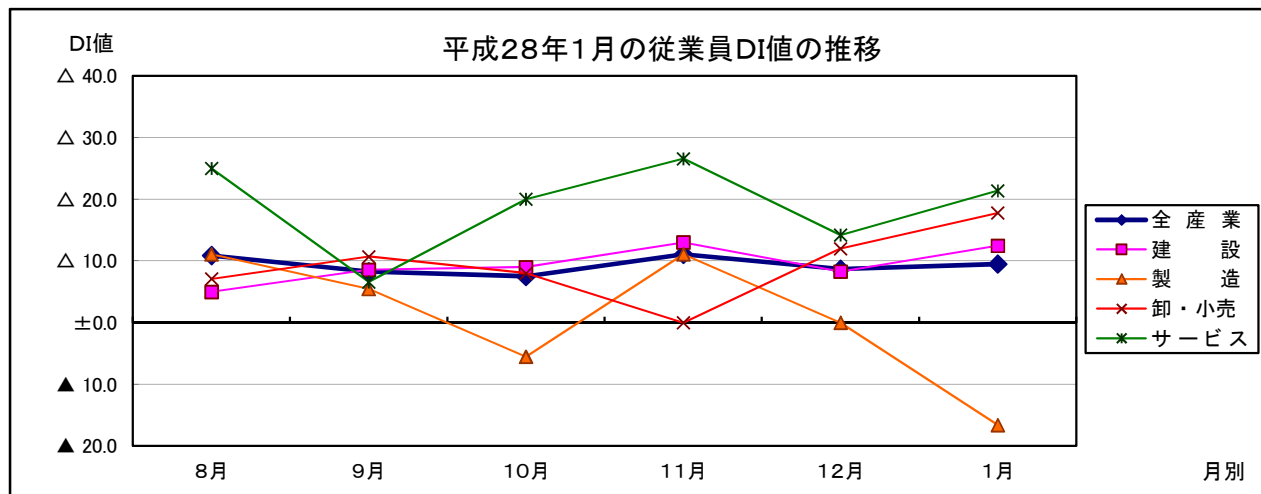
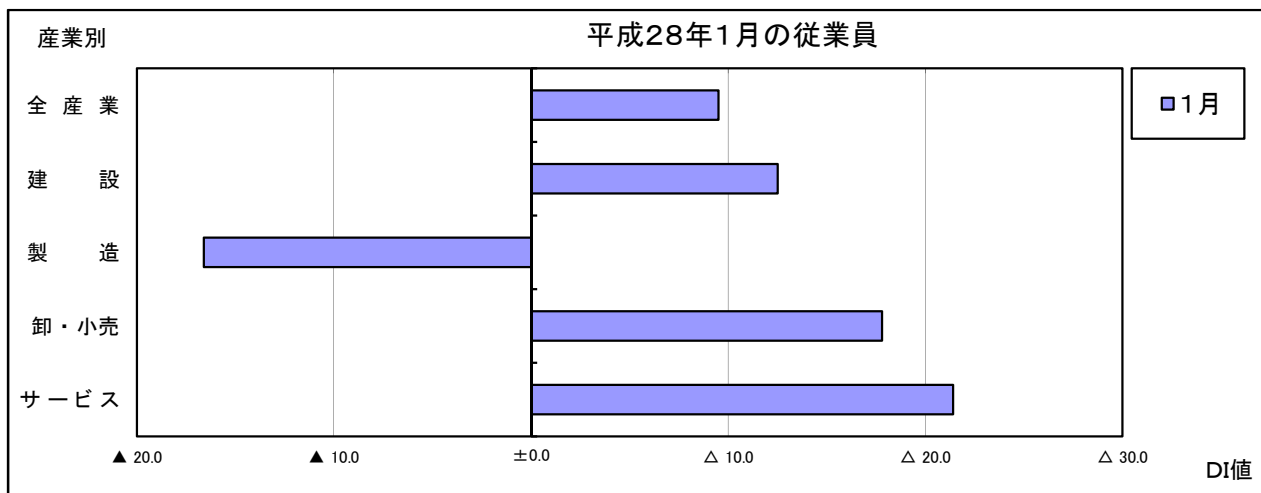
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい伊順に、サービス業△21.4(同△14.2)、卸小売業△17.8(同△12.0)、建設業△12.5(同△8.3)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲16.6(±0.0)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、△21.4(前月水準△13.7)であり、プラス幅が7.7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業△25.0(同△8.3)、卸小売業△28.5(同△20.0)である。変わらない見通しの業種は、サービス業△21.4(同△21.4)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業△5.5(同△5.8)である。

平成28年1月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 8月	9月	10月	11月	12月	1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	△10.9	△8.3	△7.5	△11.1	△8.7	△9.5	△21.4(△13.7)
建設	△5.0	△8.6	△9.0	△13.0	△8.3	△12.5	△25.0(△8.3)
製造	△11.1	△5.5	▲5.5	△11.1	±0.0	▲16.6	△5.5(△5.8)
卸・小売	△7.1	△10.7	△8.0	±0.0	△12.0	△17.8	△28.5(△20.0)
サービス	△25.0	△6.6	△20.0	△26.6	△14.2	△21.4	△21.4(△21.4)



【平成28年1月の資金繰りについての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲14. 2(前月水準▲16. 2)となり、マイナス幅が2. 0ポイント縮小した。

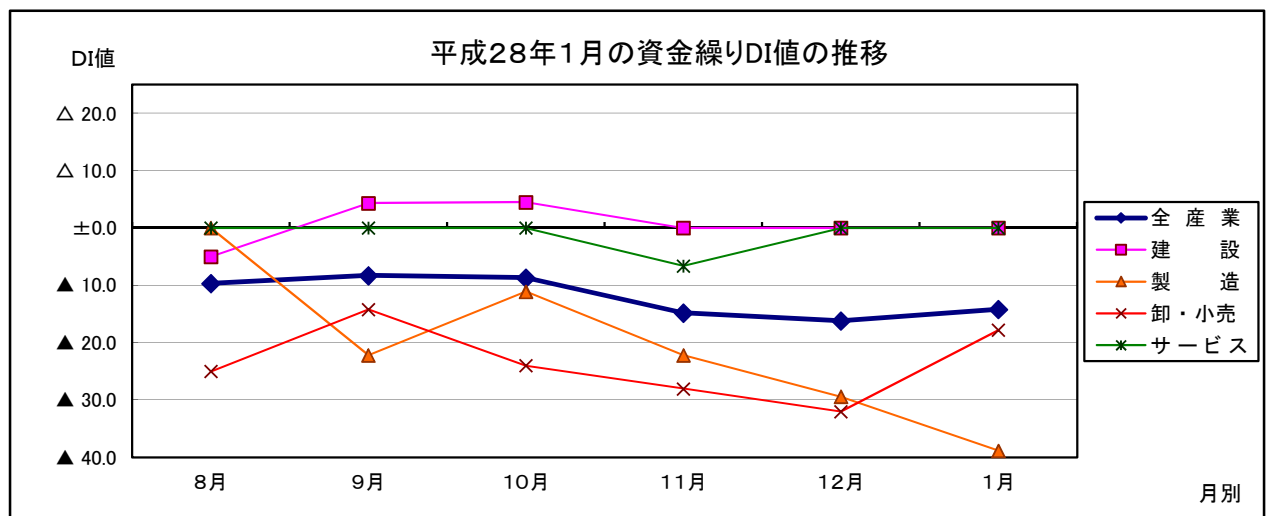
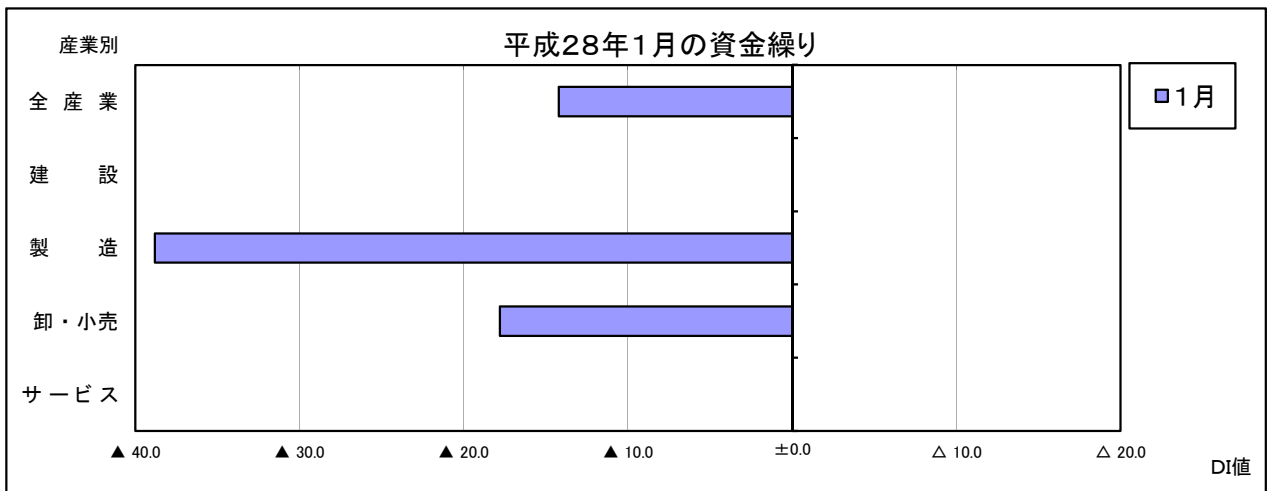
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲17. 8(同▲32. 0)である。変わらない業種は、建設業±0. 0(同±0. 0)、サービス業±0. 0(同±0. 0)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲38. 8(同▲29. 4)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲2. 3(前月水準▲12. 5)となり、マイナス幅が10. 2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△4. 1(同±0. 0)である。マイナス幅が縮小する見通し業種は、幅の大きい順に、製造業▲11. 1(同▲23. 5)、卸小売業▲7. 1(同▲28. 0)であり、特に、卸小売業では20. 9ポイントと大幅に縮小する見通しである。変わらない見通しの業種は、サービス業△7. 1(同△7. 1)である。

平成28年1月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成27年 8月	9月	10月	11月	12月	1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲ 9.7	▲ 8.3	▲ 8.7	▲ 14.8	▲ 16.2	▲ 14.2	▲ 2.3 (▲ 12.5)
建設	▲ 5.0	△ 4.3	△ 4.5	±0.0	±0.0	±0.0	△ 4.1 (±0.0)
製造	±0.0	▲ 22.2	▲ 11.1	▲ 22.2	▲ 29.4	▲ 38.8	▲ 11.1 (▲ 23.5)
卸・小売	▲ 25.0	▲ 14.2	▲ 24.0	▲ 28.0	▲ 32.0	▲ 17.8	▲ 7.1 (▲ 28.0)
サービス	±0.0	±0.0	±0.0	▲ 6.6	±0.0	±0.0	△ 7.1 (△ 7.1)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 29.7	▲ 9.5	▲ 33.3	▲ 20.2	▲ 17.8	▲ 19.0	△ 9.5	△ 21.4
建設	▲ 8.3	▲ 4.1	▲ 16.6	▲ 8.3	▲ 16.6	▲ 4.1	△ 12.5	△ 25.0
製造	▲ 38.8	±0.0	▲ 38.8	▲ 16.6	▲ 16.6	▲ 11.1	▲ 16.6	△ 5.5
卸・小売	▲ 53.5	▲ 21.4	▲ 53.5	▲ 32.1	▲ 17.8	▲ 32.1	△ 17.8	△ 28.5
サービス	▲ 7.1	▲ 7.1	▲ 14.2	▲ 21.4	▲ 21.4	▲ 28.5	△ 21.4	△ 21.4

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 29.7	▲ 14.2	▲ 14.2	▲ 2.3
建設	▲ 12.5	±0.0	±0.0	△ 4.1
製造	▲ 38.8	▲ 11.1	▲ 38.8	▲ 11.1
卸・小売	▲ 53.5	▲ 28.5	▲ 17.8	▲ 7.1
サービス	±0.0	▲ 14.2	±0.0	△ 7.1

【平成28年1月業種別業界内トピックス】

業種別	概況	キーワード	業種
建設	様子見感が強いが、消費税UPを控え、今年は動くのではないだろうか。	消費税率アップ	一般土木建築工事業
	3ヶ月先の見通しが不明。結果的に、売上の増加、採算の改善があった。	先行き不透明 売上増加 採算改善	電気工事業
	使用材料の殆どが石油製品のため、その値下げがあったと思われて、ゼネコンより施工単価を安くするよう要求されている。しかし、実際は上げ止まりとなった材料は、そのままの価格で売買され、一向に安くなる気配は無い。前年度は安価過ぎるゼネコンの受注を控えた結果、月別売上の高低差が激しかったが、今年度は売上は若干落ちているものの、安定した売上と採算を維持できている。しかし、依然として賃上げ、従業員、作業員の増員は業況的に厳しい状況である。	石油価格下落 仕入単価上昇(上げ止まり) 売上・採算安定 賃上げ(足踏み状況) 人手不足	その他の職別工事業
	1月は休みも多く、畳工事の受注は例年通りですが、畳縁(へり)バックと小物は好調。お客様(オーダー品の)にはお待ちいただいている状況。	例年通りの受注 畳小物好調	内装工事業
製造業	石油値が下がっているのに、一向にインク代、材料費が下がっていない。現首相の言う賃上げには足踏み状態。	石油価格下落 仕入単価上昇(上げ止まり) 賃上げ(足踏み状況)	印刷業
	為替の影響により海外輸入の購入品が軒並み値上げ。収益を圧迫。	輸入品値上げ(為替の影響)	その他の機械・同部品製造業
	前年同月の売上と比較しても、年々流れに変化があり、先が読めない。臨機応変の対応と日々の精進あるのみである。	先行き不透明	印刷業
	中国経済の悪化が進んでおり、大型設備関係の輸出が減少して、生産量の増加が見込めない。	中国経済悪化の影響 輸出減・生産量減	一般産業用機械・装置製造業
	初売りは動員好調も単価の低下で、セール売上伸びず。福袋は例年並み、人気の福袋は早期に売り切れなど年々人気が加速。衣料品は序盤は気温の高い日が続き、婦人・紳士とも冬物商材のコートなど重衣料の苦戦継続。高級雑貨は宝飾・美術などの高額品が好調に推移。食品は、月内にかけて年々需要が高まる恵方巻き・節分商材の動きが活発化。	初売り 単価減 福袋 天候不順の影響 冬物衣料苦戦 高額品好調 節分商材活発化	百貨店
	後半に入るまで、暖冬による重衣料、特にコートの売上が大幅マイナスであった。真冬日になった月末にも取り戻せなかった。取り分けダウンとコートは悪い。セーターも良くない。発熱系のカットソーのみ善戦した。	天候不順の影響 冬物医療苦戦	婦人・子供服小売業
	1月に入り、正月初売りは苦戦した。18日以降、気温低下で衣料品、肌着と紳士者は好調に推移。住居は寝具関連が好調。食品は鍋材料の野菜、肉、魚が好調。	初売り苦戦 衣料品一部好調 寝具好調 鍋物食材好調	その他の各種商品小売業

【平成28年1月業種別業界内トピックス】

卸小売	正月休みの並びの悪さか、通常に戻るのが早く感じた。あまり正月感が無かった。	正月感薄い	その他の各種商品小売業
	個人消費は伸びているとは思えない。今年は、沼南のSCや南柏にスーパー、柏駅前のスーパー出店等で、競争が激しくなる。それにより人手不足が心配で、時給アップ等も検討しなければならない。他店とどう違うかを明確にしていかなないと売上が下がるし、利益も減少する。	個人消費低迷 競争激化 人手不足 時給アップの検討 他店との差別化	各種食料品小売業
	最近の青果物は、異常気象ともいえる環境の中、昨年の暮れから新年中旬までは暖冬により葉物生育が早まり入荷増となったが、季節の鍋物消費がなく、安値取り引きとなっていた。後半になると、例年以上の寒気から、やや入荷が減少する一方、野菜消費が増加傾向で高値取引となっています。果物は引き続き入荷減ですが、食味はうまく高値取引にあります。今後、また急な天候異変が予測されることから、産地情報を取りながら安定供給していきます。	天候不順の影響 前半は安値取引、後半は高値取引 果物入荷減、高値取引	食料・飲料卸売業
	流山おおたかの森周辺の人口増で、売上増に寄与しているが、お客様の財布のひもは固い。新学期に向け、入学用品の動きが活発化。しかし、ネット価格との比較で、競争は厳しい。商品価格の設定にネットを参考にすることが多くなる。	流山おおたかの森駅周辺の人口増 入学用品の動きが活発化 インターネットとの価格競争	その他の飲食料品小売業
サービス業	軽油が値下がりして、燃料費が昨年より下がり、利益に貢献しています。	軽油の値下がり 燃料費減	一般貨物自動車運送業
	個人需要では、ふるさと旅行券利用の駆け込み需要が増えている。また、3月26日開業予定の北海道新幹線利用のツアー申込みが少しずつ増えてきている。ヨーロッパ方面はまだまだ敬遠されている(特に卒業旅行)。法人需要では、職場旅行や職場運動会などの社内イベントで、社内コミュニケーションアップや組織力強化、ひいては業績向上を狙う経営者が増えてきている。もはや職場旅行や社内イベントは、福利厚生ではなく、経営戦略のひとつに。自治体や関係団体に、2020年を見据えたインバウンドへの取り組みが少しずつ動き出している。	ふるさと旅行券 北海道新幹線ツアー申込み増加傾向 ヨーロッパ旅行不調 職場旅行・運動会增加 2020年に向けたインバウンドへの取り組み	旅行業
	お客様からの問い合わせは相変わらず多い。但し、購買は慎重で、成約に至るまでが長い。また、価額に対しての値下げ要請が強く、利益が取りにくくなっています。	問い合わせ件数多い 慎重な購買 値下げ要求	不動産管理業
	飲食店可の物件が駅周辺には不足している状況です。	物件(飲食店可)の不足	不動産賃貸業

◎原油安

軽油が値下がりして、燃料費が昨年より下がり、利益に貢献しています。

一般貨物自動車運送業

使用材料の殆どが石油製品のため、その値下げがあったと思われて、ゼネコンより施工単価を安くするよう要求されている。しかし、実際は上げ止まりとなった材料は、そのままの価格で売買され、一向に安くなる気配は無い。

その他の職別工事業

石油価格が下がっているのに、一向にインク代、材料費が下がっていない。

印刷業

◎天候不順

衣料品は序盤は気温の高い日が続き、婦人・紳士とも冬物商材のコートなど重衣料の苦戦継続。

百貨店

最近の青果物は、異常気象ともいえる環境の中、去年の暮れから新年中旬までは暖冬により葉物生育が早まり入荷増となったが、季節の鍋物消費がなく、安値取り引きとなっていた。後半になると、例年以上の寒気から、やや入荷が減少する一方、野菜消費が増加傾向で高値取引となっています。

食料・飲料卸売業

◎人手不足

依然として賃上げ、作業員の増員は業況的に厳しい状況である。

その他の職別工事業

個人消費は伸びているとは思えない。今年は、沼南のSCや南柏にスーパー、柏駅前のスーパーが出店等で、競合が激しくなる。それにより人手不足が心配で、時給アップ等も検討しなければならない。

各種食料品小売業











平成28年1月CCI-LOBOとの比較











- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲29.7に対し、「CCI-LOBO」が▲19.4で柏の方がマイナス幅が10.3ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、それぞれ10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲29.7に対し、「CCI-LOBO」が▲16.6で柏の方がマイナス幅が13.1ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、それぞれ10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲33.3に対し、「CCI-LOBO」が▲17.5で柏の方がマイナス幅が15.8ポイント大きい。業種別では、全ての業種で「柏の景気」の方が悪く、製造業、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲17.8に対し、「CCI-LOBO」が▲24.3で柏の方がマイナス幅が6.5ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、卸小売業では、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業である。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△9.5に対し、「CCI-LOBO」が△16.5で柏の方がプラス幅が7.0ポイント小さい。業種別では、全ての業種で「柏の景気」の方が悪く、製造業では10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲14.2に対し、「CCI-LOBO」が▲10.3で柏の方がマイナス幅が3.9ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、卸小売業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業であり、10ポイント以上悪い。











平成28年1月の柏の景気天気図











柏の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較











景気天気図					
	特に好調 DI \geq 50	好調 50>DI \geq 25	まあまあ 25>DI \geq 0	不振 0>DI \geq ▲25	極めて不振 ▲25>DI











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 29.7	 ▲ 12.5	 ▲ 38.8	 ▲ 53.5	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 19.4	 ▲ 17.4	 ▲ 16.4	 ▲ 31.3	 ▲ 13.6

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 29.7	 ▲ 8.3	 ▲ 38.8	 ▲ 53.5	 ▲ 7.1
CCI-LOBO	 ▲ 16.6	 ▲ 16.6	 ▲ 15.0	 ▲ 25.8	 ▲ 7.8

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 33.3	 ▲ 16.6	 ▲ 38.8	 ▲ 53.5	 ▲ 14.2
CCI-LOBO	 ▲ 17.5	 ▲ 16.2	 ▲ 15.4	 ▲ 29.9	 ▲ 10.7

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 17.8	 ▲ 16.6	 ▲ 16.6	 ▲ 17.8	 ▲ 21.4
CCI-LOBO	 ▲ 24.3	 ▲ 25.0	 ▲ 15.9	 ▲ 32.1	 ▲ 22.8

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 △ 9.5	 △ 12.5	 ▲ 16.6	 △ 17.8	 △ 21.4
CCI-LOBO	 △ 16.5	 △ 17.4	 △ 7.0	 △ 20.0	 △ 25.6

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 14.2	 ±0.0	 ▲ 38.8	 ▲ 17.8	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 10.3	 ▲ 5.2	 ▲ 10.3	 ▲ 18.8	 ▲ 7.0

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (1月速報)

調査期間：平成28年1月15日～21日

調査対象：全国の422商工会議所が2963企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、足踏み続く。先行きも不透明感から慎重な見方崩れず

1月の全産業合計の業況DIは、▲19.4と、前月から▲2.2ポイントの悪化。人手不足や人件費の上昇が足かせとなる中、中国経済の減速、個人消費の鈍さなどに伴う売上減少に加え、年明け以降の株価・為替の不安定な推移が中小企業のマインドを下押ししている。ただし、「好転」から「不変」への変化も押し下げ要因となったほか、観光需要や自動車関連などは堅調に推移しており、実体は、昨年秋頃からの足踏み状況が続いている。

先行きについては、先行き見通しDIが▲18.7（今月比+0.7ポイント）と、ほぼ横ばいを見込む。春節などに伴う観光需要や住宅投資による下支えのほか、原油安を背景とする原材料、燃料などの価格下落に伴う収益改善を期待する声が聞かれる。他方、新興国経済の減速や株価・為替の不安定な推移、人手不足の影響拡大などにより景気の不透明感が増す中、中小企業においては、先行きに対する慎重な見方が続く。

が続き、

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「引き合いはあるが、人手不足で対応できない。今後モリンピック関連工事による一段の労働需給逼迫が予想され、受注体制への影響が心配」（一般工事業）、「人件費の上昇が、建築資材などの価格下落の恩恵を打ち消しており、収益改善には至らない」（一般工事業）、「住宅投資が堅調であり、業績改善が続く。先行きも消費税率引き上げに伴う駆け込み需要などによる売上増が期待できる」（建築工事業）

【製造業】「売上は伸びているが、輸入原材料の価格が高止まりし、収益を圧迫。生産性向上や販売店舗の見直しなどの対策を検討する」（食品製造・販売業）、「同業他社などが人材確保のために相次いで賃上げを行っているが、自社にはそれほど余力がなく、新規採用は難しい」（鉄鋼業）、「取引先である自動車メーカーの好調に伴い受注が伸びているほか、原材料価格や燃料費の下落

によって収益も改善傾向にある」（自動車部品製造業）

【卸売業】「暖冬の影響が続き、冬物衣料が低迷する一方、例年よりも早く、春物衣料の動きが始まっている」（衣料品卸売業）、「受注増による業績改善に加え、原油安に伴い、年間300万円の燃料費削減を見込むため、賃上げや物流拠点の整備に充てたい」（食料・飲料品卸売業）、「売上は伸びているが、人手不足が深刻化。物流体制の見直しなどにより効率化を図る」（金物・建材等卸売業）

【小売業】「惣菜などの食品や家庭用品の売れ行きは良いが、婦人服・紳士服の低迷が響き、全体の売上高は横ばいが続く」（百貨店）、「高価格帯を中心に売上は好調。先行きも、春節に伴う中国などからの観光客増加を期待したい」（化粧品販売店）、「ティッシュや洗剤などの消耗品を中心に、不要不急の支出を控えたり、より安価な商品を求める消費者が多く、苦戦している」（日用品販売店）

【サービス業】「エンジニアが不足しているため、今春卒業予定の大学生を対象に採用活動を続けているが、いまだ

に確保できず、苦慮している」（ソフトウェア業）、「暖冬の影響から葉物を中心に野菜が安値となり、採算が好転している」（飲食店）、「観光客の入込は堅調であり、売上も昨年度並みを確保。他方、郊外で大型商業施設が着工し、今後、人材争奪の激化が懸念される」（旅館業）

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
8月	▲14.9	▲19.1	▲13.0	▲15.5	▲23.0	▲6.5
9月	▲17.3	▲17.3	▲16.1	▲24.0	▲24.8	▲8.7
10月	▲17.5	▲17.1	▲17.4	▲21.8	▲23.1	▲10.7
11月	▲18.1	▲20.4	▲17.6	▲17.4	▲26.3	▲10.0
12月	▲17.2	▲15.4	▲15.5	▲17.2	▲30.8	▲7.7
1月	▲19.4	▲17.4	▲16.4	▲18.2	▲31.3	▲13.6
見通し	▲18.7	▲19.7	▲11.0	▲20.0	▲32.4	▲13.4